ペルー産果実が2024年に目指す8つの新規市場

FreshFruitProtal　2024年1月19日

農業開発灌漑省（MIDAGRI）は、同省の農業衛生局（SENASA）が今年、ペルーの農産物の13の新たな海外市場へのアクセス獲得を予測しており、そのうち果実10品目は8つの市場を対象にしていると発表した。間もなく開放される輸出に関する貿易協定、果実及び市場について現状を知るために、同局のオルランド・ドロレス植物衛生部長に話を聞いた。（以下一部省略）

生鮮果実の中で、承認に向けて最も話が進んでいるものはなにか?

例えば、チリ向けの生食用ブドウ、中国向けのザクロ、マンゴー、アボカド、ブルーベリー、冷凍果実、コロンビア向けのルクマ、マレーシア向けのアボカド、ニュージーランド向けの柑橘類、日本向けのブルーベリー、ベトナム向けの柑橘類、米国向けのアスパラガス、ケープグーズベリー、ドラゴンフルーツ等である。

中国との議定書に署名するための対面の会議を準備中である。中国、韓国、日本等のアジア市場を優先している。昨年ブドウのアクセスを獲得した日本では、ブルーベリーのアクセス獲得に向けて進んでいる。今年は、ペルーの様々なセクターに重点を置き、アクセス獲得を達成したいと考えている。

ペルー産果実の8つの新しい市場の要件は何か?

これまでのところ、すべての輸入国の要件を満たすように努めているため、問題は発生していない。

SENASAは、これまでもこの点について非常に厳格で、病害虫の話がいくつかあったが、それらをすべて克服しており、ペルーからの輸出に障害は見られない。我々は非常に透明性が高く、多くの輸入国から訪問を受け、我々が何をしているのかを説明している。我々の病害虫監視システムは100％稼働している。

チリ　ブドウの輸出の出足は順調

The Grape Reporter　2024年1月22日

ペルーは2023年にかつてチリが保持していたトップの座を獲得し、正式に世界最大の生食用ブドウ輸出国となり、この商品の世界貿易の16％を占めている。現在、2位を維持しているチリの生食用ブドウ部門は、勢いを取り戻すために品種の転換に賭けている。

チリの生食用ブドウ委員会は、2024年産の最初の見通しを昨年10月下旬に発表し、今シーズン18ポンド（約8.2kg）箱で6千万箱以上の収穫を予想している。多くの産地が収穫中で、予測は依然として楽観的である。

課題を特定し、業界に解決策をもたらすことを目指しているチリ生食用ブドウ開発研究委員会（ウバノーバ）のカロリーナ・クルス副会長は本サイト（FreshFruitPortal.com）に対し、中部の産地では、特にスペリオールやトムソンなどの早生の白（緑）ブドウ品種の収穫がかなり早いと語った。

クルス氏は、出荷量を6,200万箱とした生食用ブドウ委員会の10月の予測をある程度肯定しつつも、気温が高いために、収穫が予想よりも遅くなり、収穫量が少なくなる可能性があると警告している。同氏は南部のブドウについて、「生産量、品質、期待される果実の状態のバランスを維持するために、うまく葉を出させ、施肥管理と灌漑をどのように行うかに重点が置かれる」と指摘した。

輸出に関してクルス氏は、このセクターは増加の可能性があるとしつつ、「第2週の時点で、300万箱が出荷された。これは、190万箱であった昨年を上回っている。6千万箱の輸出が見込まれるので、この時点までに輸出された割合は全体の5～8％である」と述べた。

ペルーの関係者にとって20年来の頭痛の種である生食用ブドウの米国向け輸出におけるシステムアプローチの採用に関する交渉は、この5か月間凍結されている。同氏は「政治運営と関係する成功と失敗の連続で、中期的には答えは出ないと思う。政治的な官僚主義の問題になってしまった」と言う。

同氏は、「我々はチリにとって非常に良いシーズンになることを願っている。生産者は良いシーズンを必要としている。競合国の生産量が少ないため、市場ではかなり受け入れられるだろう」と付け加えた。